

社会貢献活動：パソボラ倶楽部

PC Volunteer Club for People with Disabilities: Pasobora Club

あらまし

富士通インフォソフトテクノロジーの社会貢献事業の一環として活動している「パソボラ倶楽部」は、人的援助（ボランティア）、パソコン講習会の会場設備提供、遊休設備の無償貸与などを行っている。本稿では、この「パソボラ倶楽部」の活動紹介を中心に、視覚障害者、聴覚障害者がパソコンをはじめとするIT機器を使えるようになるために必要な環境、設備、ソフトウェア・ハードウェア、およびサポータに関する課題と解決へのアプローチについて述べる。また、このような活動の輪を富士通グループ全体に広げていくために必要なバックアップ体制などについても述べる。

Abstract

The Pasobora club is a PC volunteer club run by Fujitsu Info Software Technologies Limited as part of their philanthropic activities. The club freely provides space and equipment (e.g., PCs that are not being used by the company) for a personal computer workshop and also arranges for volunteers to teach and assist in the workshop. This paper looks at the special requirements of people with visual disabilities or people with hearing disabilities when they use information technology (IT) equipment, for example, requirements regarding the environment, software, hardware, and assistants and shows how the Pasobora club is trying to meet these needs. It also describes the organizational backup structure that is required to extend this type of activity throughout the entire Fujitsu group.



山本孝志（やまもと たかし）
 (株)富士通インフォソフトテクノロジー第二開発統括部第二開発部所属
 現在、3次元CADシステムの開発に従事。



山本直樹（やまもと なおき）
 (株)富士通インフォソフトテクノロジー品質推進部 所属
 現在、品質情報サービスの運用に従事。



小林 正（こばやし ただし）
 (株)富士通インフォソフトテクノロジー品質推進部 所属
 現在、ユーザビリティ、アクセシビリティ関連の業務に従事。

まえがき

近年のインターネットの爆発的な普及をきっかけに、パソコンを社会生活に利用することが当たり前になり、インターネットを利用した情報提供やサービス提供が数多くまた幅広く行われている。また、利用者同士のコミュニティ形成も盛んに行われている。以前よりパソコン通信によってコミュニティが運営されていたが、パソコンに精通している一部の人で利用されていたに過ぎず、インターネットの普及によってその世界を広げている。したがって、パソコンを利用できないということは、この利便性を手にすることやコミュニティへの参加ができず、情報弱者を生む結果となっている。とくに高齢者や障害者はこの情報弱者になってしまう可能性がある。

障害者がパソコン技術を習得しようとしたときに、その障害の種類や程度によって健常者とは違う難しさがある。

視覚障害者は、紙の上やディスプレイ上に表示される文字を読み取ることができないので、盲人が使用する教材は使えない。それ以前にパソコンを使って得られるであろう情報もディスプレイに表示されるだけであれば、それを得ることができない。このことに対しても考慮が必要である。

聴覚障害者は、音声による情報を得ることができにくいので、健聴者を対象にした講習会などでは講師の説明を聞くことや質疑応答が難しい。

また、パソコンそのものも、ちょっと試してみるには高価であり、就業の困難な障害者にとって経済的負担が大きい。障害者に対する補助制度はいろいろとあるが、パソコンそのものを購入する際の補助がない。

パソボラ（パソコン・ボランティア）とは、このような様々な身体障害のために情報弱者になりやすい人のパソコン利用と維持を支援するため、パソコンの導入に関するアドバイスやパソコンのセッティングのお手伝いを行っている。パソコン導入促進のためにパソコンの体験会の実施や貸し出しを行っている活動もパソボラと言える。生活補助具として、またコミュニケーションの手段としてパソコンを利用できるように手助けすることが、障害者の自立を助けることにもつながり、社会貢献の活動として効果も高いと思われる。

本稿では、「パソボラ倶楽部」の設立経緯、活動実績、および現状の課題と解決へのアプローチについて述べる。

パソボラ倶楽部の設立経緯

「パソボラ倶楽部」は、富士通インフォソフトテクノロジー（以下、当社）の社会貢献事業の一環として、当社社員による人的援助（ボランティア）、会社による会場設備提供（光熱費を含む）や遊休設備の無償貸与などを行うことを目的としている。まず、最初に「パソボラ倶楽部」の設立経緯から説明する。

「パソボラ倶楽部」設立以前から、当社社員の個人的なボランティア活動を会社が支援するケースがあった。例えば、ボランティア組織とつながりのある当社社員の働きかけにより、遊休になった旧型パソコンを障害者コミュニティの支援ボランティアに無償貸与している。

2001年3月19日、当社社員が会社に対して障害者福祉支援活動を中心とした支援を申し入れたことに対して、会社側から「できるものを無理せずやっていく」という姿勢で全面的な支援が約束された。この際、対外的な窓口として社内の文体活動的な組織を作るように勧められ、結成されたのが「パソボラ倶楽部」である。「パソボラ（パソコン・ボランティア）」という言葉を経営名に取り入れたのもIT技術を有する当社の社会貢献事業として「できるものを無理せずやっていく」という姿勢の表れである。現在、「パソボラ倶楽部」は静岡県を中心に活動している。

当社社員は、「パソボラ倶楽部」に参加することにより、会社で培ったパソコンの知識を活用した社会貢献を实践でき、また、自己の見識を広げることができる。

活動実績

パソボラ倶楽部では、社員から提案された活動のうち、継続的に提供できそうな活動を行っている。

● 中古パソコンの無償貸与

パソボラ倶楽部では、遊休となった旧型パソコンを障害者または障害者団体に無償貸与する活動を行っている。

外部からの要請があった時点で、要請の条件に合致した機種が遊休になっていた場合に限り、相談に

応じている。貸与する際、HDD上のデータの完全消去など必要な措置をパソボラ倶楽部が行う。実績件数は少ないが、障害者コミュニティで初心者向けの体験用パソコンとして活用されている。

しかし、現状では旧型パソコンの需要はさほど多くなく、活用先を探してもなかなか見つからないことがある。これは、パソコンのライフサイクルが減価償却期間に比べて極端に短く、企業の遊休品から無償貸与されるパソコンは必要とする条件に対して古すぎてしまうためである。また、添付できるソフトはOSだけとなり、旧型機であるため、ハード性能を要求する最新のアプリケーションはインストールしにくく、使い道が限定される。

● 視覚障害者のパソコン講習会への会場提供

CATS（視覚障害者情報機器アクセス支援グループ）という団体のパソコン講習会開催会場として当社施設を無償で提供している。この活動は、2001年5月より月に1回、休日を利用して行われている。会場管理のためパソボラ倶楽部のメンバがこの活動に参加している。

CATSは、視覚障害者にとって生活の必需品であるパソコンの操作方法習得を自助努力によって解決し、すでに操作方法を習得している会員が、習得を希望する会員に教えるという勉強会形式で成り立っている。

講習希望の会員の増加、会場のアクセス問題などがあったが、駅前という立地条件および点字ブロックによる誘導という条件が整っている当社のプレゼンテーションルームを会場として提供することで対応している。

● 聴覚障害者向け講習会への講師派遣、教材提供

聴覚障害者向けに行われるパソコン講習会には、当社に勤務する聴覚障害者を中心に講師を派遣している。講習会そのものは主催していないが、講習会の開催方法について助言したり、教材の準備などを手伝ったりしている。

現在までの実績として、静岡市主催の聴覚障害者向けIT講習会などに講師を派遣している。

講習会の進め方として、パソコン機能の説明をプレゼンテーションツールの利用によって、文字と図による視覚的な効果で理解できるように工夫している。また、専門用語を分かりやすい手話で置き換えて説明している。操作を教える場合、プロジェクト

に映したパソコン画面で講師が手本を見せ、受講生も同様に操作してもらうようにしている。その際、補助として別の講師を付けるようにした。このように聴覚障害者の受講生2人に1人の補助講師が付くように考慮するなど工夫をすることで、聴覚障害者でも健聴者と対等に講習会を受講でき、パソコン技術を身につけることができる。

● インターネットにおけるサービス事業

当社事業であるインターネット接続プロバイダ「webしずおか」でも社会貢献事業の一環としていくつかの活動を行っている。

- ・障害者を対象にした料金割引
- ・無償ホームページエリア提供
- ・コンテンツ無償作成
- ・三宅島噴火避難者に無料接続ID提供

障害者割引については、社会的な要請もあり、障害者を支援しているパソボラ倶楽部の意見を取り入れながら実施した⁹⁾

無償ホームページエリア提供とコンテンツ無償作成については、「webしずおか」開局当時にコンテンツの増加と社会貢献をにらんで自ら行っていたものをパソボラ倶楽部の前身である当社のボランティア活動者が引き継いで、活動を継続している。

このたび、当社の社会貢献事業の一環として専用ドメイン (<http://www.e-switch.jp/>) も取得し、パソボラ倶楽部のサポートのもとでサービスの拡充を行っていくことになった。

現状の課題と解決へのアプローチ

障害者がパソコンを利用できるようになるためには、いくつかの環境整備が必要である。ハードウェアの準備はもとより、使いこなしのための教育が特に必要であるが、その教育環境は必ずしも十分に整っているとは言えない。弱視者のための画面拡大機能や読み上げソフトの同梱など、パソコンのアクセシビリティの向上は年々図られているものの、前述したような障害者が使うための環境とのギャップは大きく、障害に応じてハードウェアやソフトウェアを別途組み合わせる必要がある。これに対して、教育を実施するためには、そのハードウェアやソフトウェアの使用を前提とした教育コンテンツの準備が必要となるが、現実的には個別に対応するしかないのが実情である。

● 視覚障害者向け支援

視覚障害者がパソコンを利用するには、文字読み上げソフトおよび文字読み上げソフトの併用を前提としたメーラやワープロなどのアプリケーションソフトが必要になる。また、点字を利用する視覚障害者にとっては、6点または8点入力（6点入力）が可能なキーボードも必要である。ハードウェアの準備という点では、6点入力が可能なキーボードというのが、最大のネックになる。6点入力とは点字タイプライタと同等な入力方法で文字をタイプインする入力方法である。簡単な入力方法であるとともに、これからも点字の使用を生活から切り離せないとする視覚障害者の立場からは、最も推奨されるものとなっている。6点入力は、複数のキーを同時に押すという操作が求められるが、市販されているデスクトップパソコンに添付されているキーボードもしくはノートパソコンのキーボードは、このような入力方法を前提としたものではないため、6点入力が不可能なものがある。あるインターネットサイトでは、機種ごとの可否を検証して情報提供しているが、製造ロットによって可否が変わってしまう可能性がある。デスクトップパソコンの場合には、キーボードを買い換えることで対応できるが、ノートパソコンの場合には取替えがきかない。キーボードを接続することで対応できるが、持ち運びを考えると、ノートパソコンのメリットを失ってしまう。

現在、当社でサポートしているCATSの講習会では、会員が自分のパソコンを使って勉強を行っている。自分のパソコンで勉強するというのは実に重要なことである。視覚障害者にとっては、キーの配列やソフトウェアのインストール状態、メニューの状態などを体で覚えることでスムーズな操作が行える。他人のパソコンで覚えてもダメなのである。さらに、持ち運びを考えるとデスクトップパソコンでは困り、ノートパソコンが必要になる。

パソボラ倶楽部は、障害者がパソコンを利用する際に直面するこのような問題点を吸い上げ、解決のための活動も行う。

また、一般にパソコンに精通しているだけでは、6点入力という特殊な入力方法、読み上げソフトウェアなど専用のアプリケーションソフトウェアの使い方を教えることができないため、CATSはその環境を利用している当事者同士で教え合うという勉

強会形式を選択している。ただし、パソコンを利用したい会員が急激に増加し、講習を希望する会員に対して講師を行える会員の絶対数が足りなくなってきた。そこで、視覚障害について理解し、視覚障害者の利用するパソコンの環境に精通している晴眼者のサポートを養成する活動も行っている。ここで、晴眼者が勉強のために購入する視覚障害者専用ソフトウェアやハードウェアについて、なんの補助制度も適用されないという問題が出てくる。障害者向けの専用ソフトウェア・ハードウェアは高価であり、経済的負担となる。これは、視覚障害者だけでなく様々な障害者を支援する者にとって共通の問題である。

パソボラ倶楽部では、CATSの活動を会場提供という面で支える活動を行っている。継続していく上では、特殊なスキルを要する活動ではなく、このような簡単で効果のある活動がもっとも望ましいと思われる。

● 聴覚障害者向け支援

インターネットでは様々な情報が文字で流れており、目で見て生活する聴覚障害者にとっては非常に有効に情報を収集できるので、パソコンを情報収集ツールとして活用できる。しかし、「パソコンを使いこなせる人はどんどん使いこなし、そうでない人は全く使わない」という傾向にあり、聴覚障害者の間でも情報格差が広がってきている。

聴覚障害は、言い換えるとコミュニケーション障害とも言える。言いたいことがなかなか伝わらない、何か言われていても、相手が何を言っているのか良く分からないという点で、コミュニケーションがスムーズに進まず、そのため情報がなかなか入ってこない場合がある。パソコンを習得するのに何かとコミュニケーションが必要になり、そこに壁があるのが現状である。

パソコン講習会やパソコン教室に通って勉強したい、と思っても講師が健聴者であり、音声で説明されてもさっぱり分からず、手話のできる講師がいれば覚えられるのにという声が多い。

このようにコミュニケーションなしで、しかもマニュアルの理解にも苦しむ状態でパソコンを覚えていかなければならないケースが多く、また使えるようになったとしても、パソコンの様々な可能性がありながら、それを知らずに使い続けているのが現状

である。聴覚障害者について考慮した教材と手話のできる講師がいれば、聴覚障害者のパソコン活用に弾みがつくと思われる。

現在、静岡県内で聴覚障害者のパソコン活用を支援するコミュニティは存在していない。しかし、聴覚障害者としてのコミュニティとしては、静岡県内には会員数800名の社団法人静岡県聴覚障害者協会があり、またほかに静岡県難聴・中途失聴者協会、手話サークルなどがある。それらの団体では手話通訳養成、手話普及活動などを行っている。

そこで、静岡県の聴覚障害団体としては最大の社団法人静岡県聴覚障害者協会に、聴覚障害者のパソコン活用を働きかけていくことにした。

社団法人静岡県聴覚障害者協会は県内に11支部があり、県、各支部に文化部という組織がある。今後、それらを通じて各支部でパソコン・インターネット講習会を開くように働きかけ、当社から「手話のできる講師」を派遣していく。これにより、コミュニケーションの壁で一般のパソコン講習会やパソコン教室を敬遠していた聴覚障害者も受講することができるようになることが期待される。

しかし、当社に勤務する聴覚障害者3名だけで対応するには限界があるので、視覚障害者の支援団体であるCATSのように集まった聴覚障害者がお互いに学び合い、教え合い、指導者のスキルを身に付け、さらに各地で聴覚障害者を対象にパソコンを指導し

ていくようにするのが目標である。

む す び

本稿では、インターネットによる情報社会において、パソコンによるコミュニケーションが重要となる中で、情報弱者となりがちな障害者に対してパソコン利用の手助けを行うボランティア活動を紹介した。

「継続は力なり」という言葉で示されるように、パソボラ倶楽部の活動は「継続」が大事だと考えている。そのためには、無理のない範囲で活動していきたい。また、この活動を通じてパソコンを始められた方々が、「継続」して使っていくためのサポートというのも大事である。きっかけを与える活動、および「継続」するためのコミュニティをサポートしていくことを主に考えていきたいと思っている。

「パソボラ倶楽部」という実体のある組織としたことで、個人的にボランティア活動を行っている従業員が、企業の持つ人材や機材などのリソースを利用したいと考えたとき、会社と活動者との間を取り持つ役割も担えればと考えている。

参考文献

- (1) 【webしずおか入会案内】障害者割引制度
<http://www.wbs.ne.jp/welcome/sho-waribiki.htm>